

秋田県北部における地域M C協議会の連携と今後の展望

秋田県M C協議会北秋田地域協議会（北秋田市消防本部） 小笠原力



春

森吉山

夏

綴子太鼓

秋

秋田内陸線

冬

樹氷(森吉山)

アウトライン

- 秋田県M C体制について
- 地域M Cの連携に至る経緯と過程
- 全国普及が可能な点と展望

消防本部救急救命マスコットキャラクター



おべるベアー

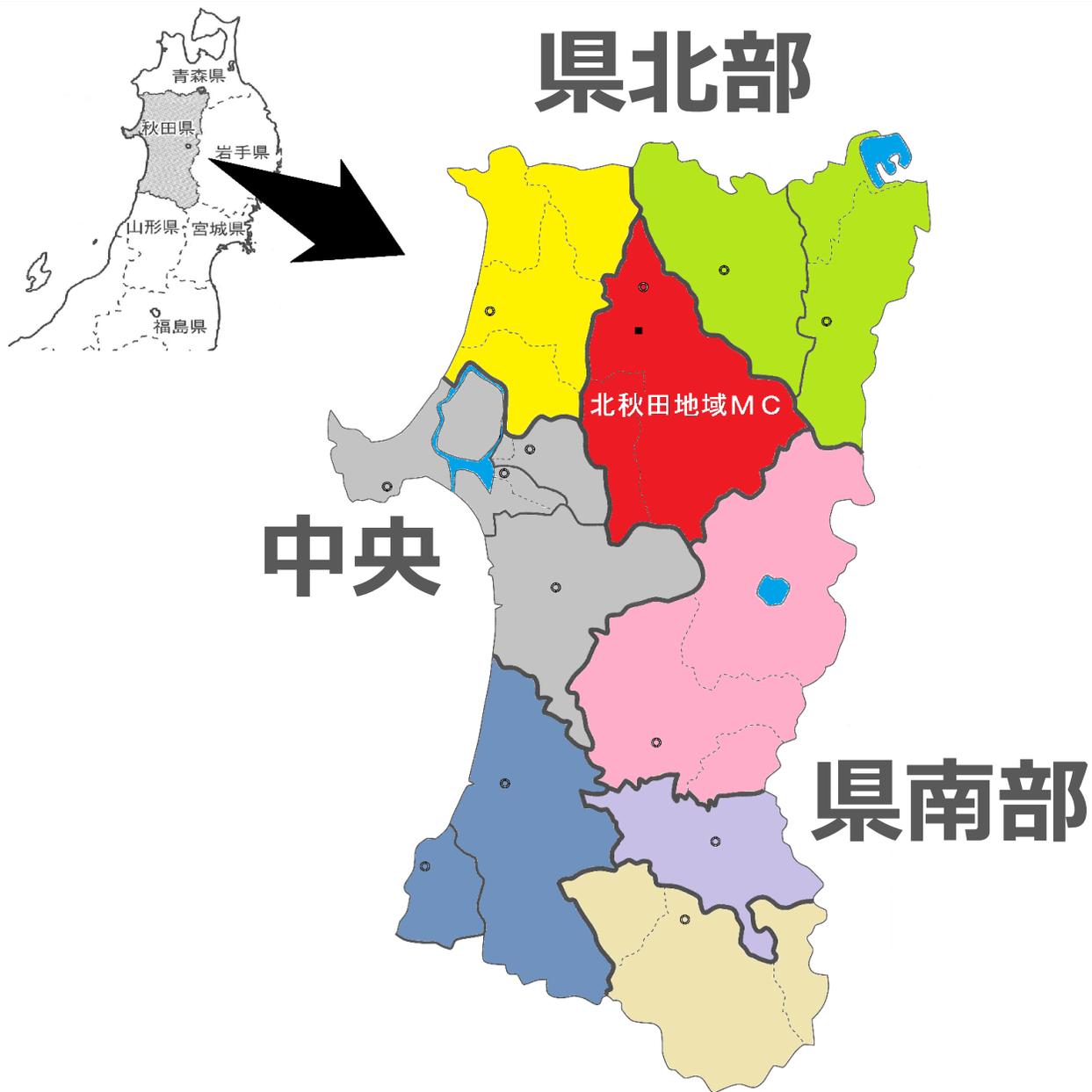
おべるべ（秋田弁）覚えようよ・覚えてたでしょう



<https://www.city.kitaakita.akita.jp>



秋田県M C体制について



地域M C	消防	医療機関
①大館鹿角	2	4
②北秋田	1	1
③能代山本	1	3
④秋田周辺	4	8
⑤本荘由利	2	3
⑥大仙仙北	1	3
⑦横手	1	3
⑧湯沢雄勝	1	2
⑨指導救命士会		



地域M Cの連携に至る経緯

- 医療圏 2 力所の二次医療機関が統合、1 医療機関となった。
- 当地域M C委員からの意見
 - ◆ 地域M Cの構成が1 消防本部 1 医療機関であるのは県内でも当地域のみで、「ガラパゴス化」して孤立しているのではないか。
 - ◆ 検証・協議される内容について、他の地域M Cと意見交換、情報共有したい。
- 消防広域化の計画 ⇒ 隣接消防本部、ブロックごと？
- 秋田県医療保健福祉計画 ⇒ 医療圏の連携も想定している。

何から始めて、どのように進めるべきか？





地域M C連携までの過程

①問題点の洗い出し

- ◆ 県北部3の地域M Cを合同で開催できるのか？
- ◆ 事後検証の体制はどうするのか？
- ◆ 各委員は他の地域M Cに参加するのか？

②県M C事務局に相談

⇒ 「現在の地域M Cの枠組みを崩すことがなければ、他の地域M Cに参加することは可能」との回答。

③当地域M C会長と協議

- ◆ すべての委員が揃って参加することは不可能に近い。
- ◆ オブザーバーとして相互の地域M Cに会長と事務局数名が参加。

④各地域M C事務局が集合、事前打ち合わせ

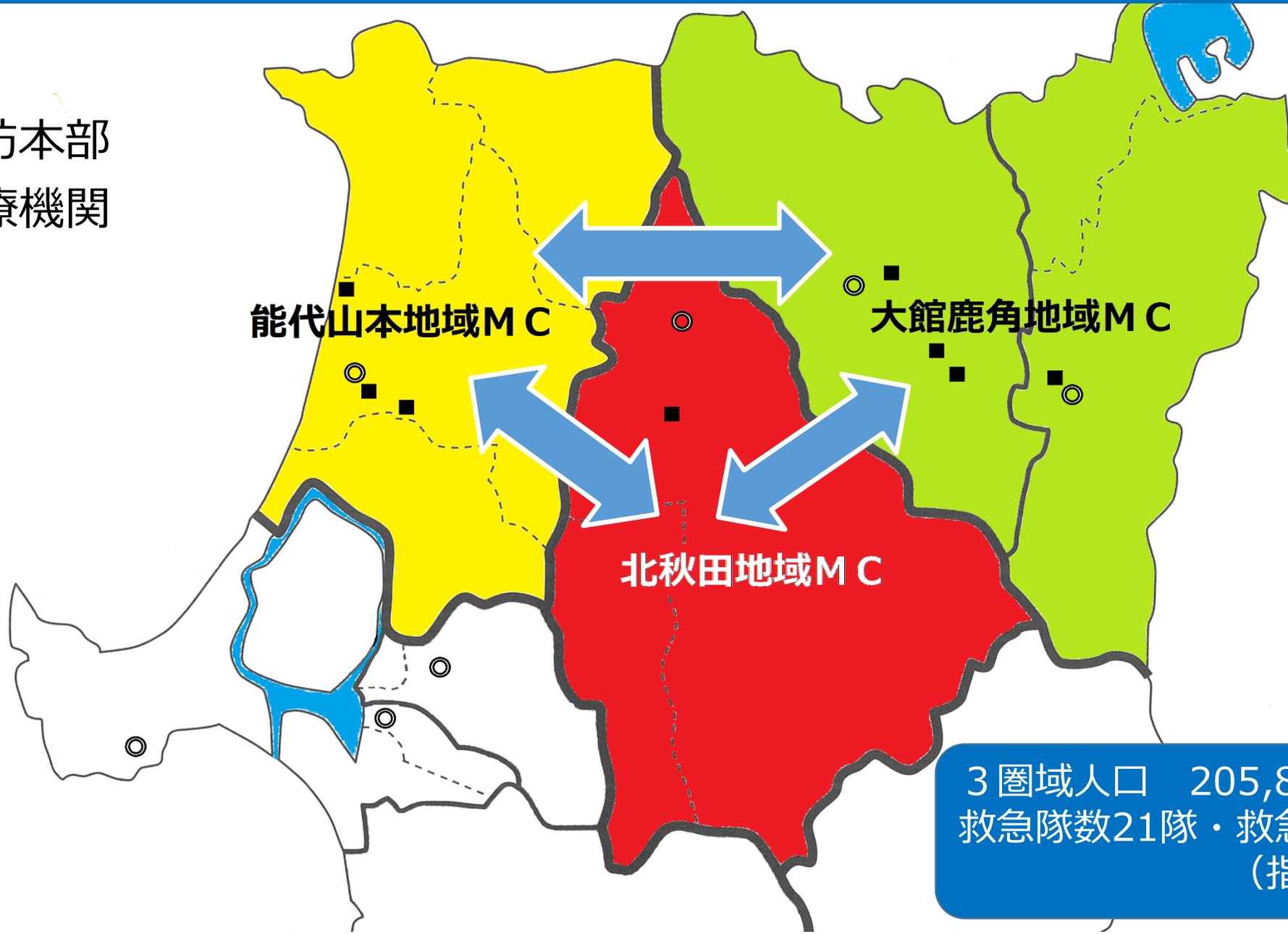
- ◆ 検証体制の相互確認と検証方法の検討。
- ◆ 各地域M C会長に説明と了解を得ることを申し合わせ。



連携し、相互の地域M Cに参加

◎ 消防本部

■ 医療機関



3 圏域人口 205,884名
救急隊数21隊・救急救命士153名
(指導救命士含む)



事後検証・意見交換・情報共有

- プロトコルの確認
 - 生涯教育、認定実習の状況
 - 資器材の使用注意点の周知
 - 感染症対策
 - 12誘導心電図伝送
 - E L V Oスクリーン
- 他



他の地域MCに参加後の意見

- 事後検証から見えてきた消防本部ごとの救急体制の比較や取り組みを知ることができた。
- 多岐にわたる情報共有がなされ有用であり、今後も継続するべき。



全国普及が可能な点と展望

- 他地域MCの特色や取り組みから、自地域の問題点を見つめ直し、さらにブラッシュアップすることができる。
- 各委員のアンテナが広がり、より活発な問題提起や議論がなされ、救急医療ネットワークが強固になる。
- 合同で議論し、相違点についてはスムーズに県MCへ議題提出可能。
- 広域的な医療格差を是正するために地域MCの枠を超え、統一した資器材導入の検討も可能。
- 共通認識がより深まり、救急隊活動の平準化がさらに図られ、県内どこの場所においても同じプレホスピタルケアが提供され、最終的には県民の救命効果の向上に繋がる。

近隣地域MCが連携することで、大きな成果を得られる可能性あり！！





ご清聴ありがとうございました。

